



CSR Report 2011

CSR報告書2011

 株式会社 トリ シマ 西島製作所

〒569-8660 大阪府高槻市宮田町一丁目1番8号
編集：CSR本部 CSR推進室
お問い合わせ先：TEL(072)695-0551 FAX(072)693-1288

 ホームページ
<http://www.torishima.co.jp/>



この報告書を印刷する際の
電力(50kWh)は、100%
グリーン電力(風力)により
賄われています。



2011.07.1800①

 株式会社 トリ シマ 西島製作所

社是

「金銭の赤字を出しても信用の赤字は出さな」

企業理念

「私たちは、人と自然との関わりを大切に、
ポンプを含む環境共生事業を通して
広く社会に貢献します。」

Contents

社是／企業理念	1
トップコミットメント	2
環境貢献技術	
世界的水不足の解決と地球温暖化防止のために	3
ハイテクポンプ・プロジェクト事業	4
サービス事業	5
エコポンプでCO ₂ 削減	6
新エネルギー・環境事業	6
環境マネジメント	
環境方針と推進体制	7
環境自主行動計画と実績	8
CO ₂ 排出量削減への取り組み	9
廃棄物の抑制と再資源化への取り組み	9
特定化学物質取扱量の削減への取り組み	10
エネルギー使用量および環境負荷に関する状況	10
環境会計	11
環境監査	11
環境コミュニケーション	12
企業の社会への貢献	
CSRの推進体制	13
コーポレートガバナンス体制	13
コンプライアンスに関する方針と推進体制	14
地域・お客様等との関わり	15
リスクマネジメント	17
グループ会社の環境保全への取り組み	18
会社概況	18

Top Commitment

東北、世界、そして地球に貢献する

2011年3月11日に発生した東日本大震災(東北地方太平洋沖地震)は、未曾有の被害を日本にもたらし、津波や原発事故による甚大な被害は未だ収束の目途すらついていないのが現状です。幸いにも当社グループ従業員等の人的被害はなく、重大な影響を及ぼすほどの物的被害もありませんでした。一企業として当社も、微力ながら被災地の皆様へ義援金の拠出をさせて頂くとともに、大規模プロジェクトを施工しているベトナムのお客様や協力企業の皆様など、企業・個人を問わず、世界中の多くの方々から頂いた温かいご支援を日本赤十字社へ寄付させて頂きました。

「この震災を機に日本人のメンタリティーが変化した」と指摘されるように、今回の震災は一つの時代の区切りとなったとも言えます。家族や地域コミュニティの絆の大切さが改めて強く認識され、全国各地で共助の動きが広がっていますが、これを契機としてこの国が完全に立ち直れるように、各企業・個人が可能な範囲で出来ることをしっかり行うことが、生き残った国民一人ひとりの責務であると考えております。この使命に基づき、当社は2011年度の経営方針として、①東北、世界、そして地球に貢献する ②一に技術、二に技術、三に技術 ③正確に、はっきりと、そして必ず の3項目を定め、被災地の復旧と未来への復興の支援に全力を挙げて取り組んでまいります。これは、日本企業としての使命だととらえております。

特にポンプは、あらゆる場面で人間生活や企業活動を支えている機械です。トリシマは、電力危機や農業復活、工場復旧や上下水・治水事業復旧への対応など、どうすれば被災地域の方々のお役に立てるかを、一義的に考えます。たとえどんなに困難な局面に遭遇しても、『どうしたら出来るか』を徹底的に考え抜き、全社一丸となって復旧・復興支援業務にあたっております。

原発事故に起因する電力危機は、経済活動の縮小・停滞を招き、化石燃料など代替エネルギー調達による製造コスト増大とそれに伴うCO₂排出量の増加、ひいては温暖化防止対策における国際社会での信用低下といった問題を引き起こす、憂うべき事態だと考えております。全ての社会インフラを支える産業機械のメーカーとして当社は、一人でも多く、一社でも多くのお客様をご訪問して、ポンプの省エネ化・CO₂削減効果向上の提案活動を徹底してまいります。具体的には、ポンプ仕様の最適化による、ポンプ駆動電力の低減に向けた活動を通じて、低炭素社会の構築に役立つ製品・サービスの開発・提供を更に進めていく所存です。

そして今後は、「ポンプdeエコ」をより発展させて、「ポンプde東日本、世界、地球を救う」という更に大きな目標のもと、事業拡大を推進してまいります。

2011年7月

株式会社 西島製作所
代表取締役 社長

原田耕太郎

環境貢献技術

グローバルな環境経営を展開する トリシマグループ

トリシマのテーマは、ポンプをはじめとする風水力機械、環境関連システム、風力発電システムおよび優れたエンジニアリングを提供する総合企業として、美しい自然と安らぎのある地球環境を未来に引きついでいくことです。

事業内容

ハイテクポンプ事業

ポンプ単体の提供
発電、海水淡水化、石油化学プラント向けなど常に高度なニーズに応えられる高付加価値ポンプ

新エネルギー・環境事業

風力発電、小水力発電、汚水の流送と処理、資源リサイクル



プロジェクト事業

ポンプ場設備全体のEPC（設計・調達・建設）の提供
上・下水道、かんがい、排水設備などのターンキーベースの建設

サービス事業

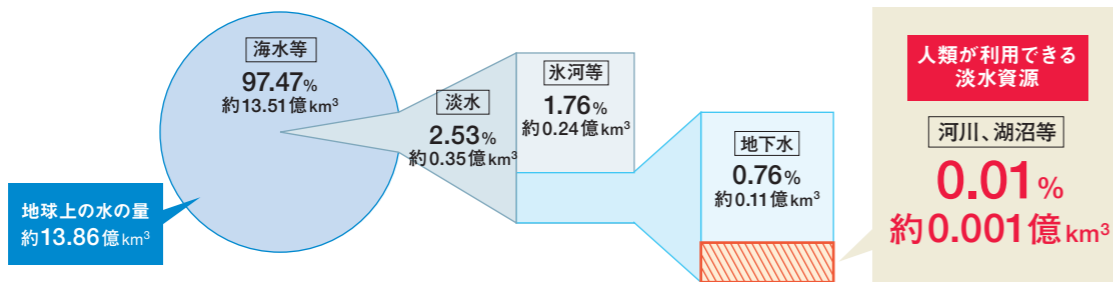
オペレーション&メンテナンス、ソリューションの提供

世界的な水不足の解決と地球温暖化防止のために

地球上に存在する水資源のうち、人類が利用に適した淡水資源は河川・湖沼などわずか0.01%に限られています。今後、世界人口の増加や新興国の工業化により水需要が増大する一方、地球温暖化など気候変動が水供給へ及ぼす影響が懸念されており、現在よりも水不足がさらに深刻化すると予測されています。特に中東地域は水不足が深刻な地域のため海水淡水化プラントの重要性が増していますが、当社は同地域へ既に数多くのポンプの納入を行うなど世界における水問題の解決に貢献し続けております。

他方で、世界の水需要の高まりや上下水道事業の民営化が進むにつれ、水ビジネスの市場規模が拡大しています。この世界市場では欧米の水メジャーが優位性を確保し

ており、日本も国を挙げての戦略が求められています。こうした状況の中、海外の水インフラプロジェクトに関する官民連携に向けた情報共有・交換の場として「海外水インフラPPP協議会」が2010年7月より開催され、当社も委員として参加しております。今後も引き続き当社は、高効率ポンプなど製品の性能向上を通じ、ポンプ運転時の電力消費量の低減や温室効果ガス排出削減に寄与していくとともに、この協議会の枠組みの中で、施設の建設から維持管理・運営まで今後手掛けることを検討しています。またアフターサービスにも注力することで市場への参入機会を増やし、水不足の解決と温暖化防止に一層貢献してまいります。



(注) 1. World Water Resources at the Beginning of 21st Century; I.A. Shiklomanov and John C. Rodda, 2003 をもとに国土交通省水資源部作成
2. 南極大陸の地下水は含まれていない。
(出典) 国土交通省土地・水資源局水資源部「平成22年度版日本の水資源」

環境貢献技術

ハイテクポンプ・プロジェクト事業

日々の“暮らしのライフライン”を支える上・下水道等の大型ポンプ設備から、エネルギー、化学、海水淡水化などのプラントでコアとなるハイテクポンプまでトータルエンジニアリングで提供しています。また、高効率型ポンプを開発・提供することで、ポンプ運転時の省エネルギーに貢献しています。

またトリシマはポンプ単体の開発・製造・販売だけでなく、ポンプ場設備および関連設備全体の設計からエンジニアリング、部材の調達、建設、据付・試運転までの工程をコーディネートし、インフラ整備・拡充の一翼を担っております。

●トリシマポンプのサウジアラビアにおける納入実績

世界最大の海水淡水プラントでも、トリシマポンプが大活躍。サウジアラビアの発展を支えています。

国土の大半を砂漠が占めるサウジアラビアでは、人々の暮らす都市部では全く水が足りず、1960年代から生活用水の大半を海水淡水化プラントに頼ってきました。今でも世界最大の海水淡水化プラント稼働国であり、その造水量は年間12億トン以上！トリシマは、1970年代から現在まで、サウジアラビアの主要海水淡水化プラントのほとんどにポンプを納入。人々の快適な暮らしと社会の発展を支えています。



世界最大級の海水淡水化プラントで、こんなに多くのトリシマポンプが活躍しているんだ！！

サービス事業

本社・TSS・TSSE・TGEの4拠点を中心に、グローバルなサービスネットワークを展開

今後ますますグローバル化するマーケットや多種多様なニーズに柔軟に対応できるよう、本社サービス本部を中心として中東ドバイのトリシマ・サービス・ソリューションズ(TSS)、イギリスのトリシマ・サービス・ソリューションズ・ヨーロッパ(TSSE)、インドネシアのトリシマ・グナ・エンジニアリング(TGE)の4拠点体制で、世界各国のお客様へポンプ設備の長寿命化・機能強化に向け、様々なサービス・改善技術提案活動を行っております。

その他の海外サービス拠点としては、インドネシア近郊のハリアナ州に現地法人(Torishima Pumps India Private Ltd.)を設立し、火力発電所向けなどハイテクポンプのメンテナンス及びプラント設備の改善・改良を提案するソリューション活動を今後展開いたします。

●据付・試運転

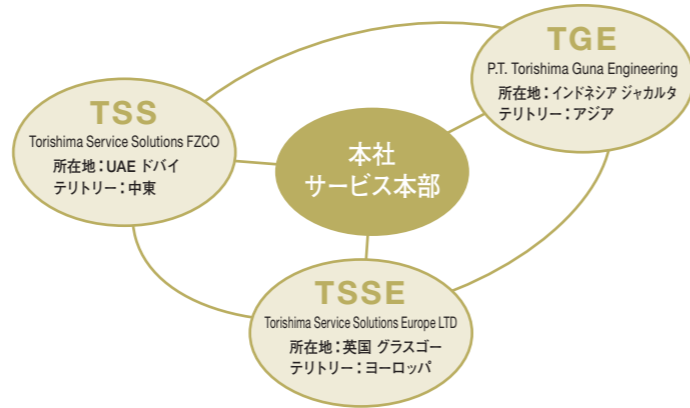
・国内外を問わず当社の技術員を派遣し、ポンプ設備の据付工事および試運転に対して指導監督をいたします。

●メンテナンス

・定期的な保守点検・オーバーホールを実施し、ポンプがベストな状態で稼働しているかどうかを診断いたします。
・ポンプ機能の低下がみられる場合は、機器・部品等の補修だけではなく、省エネ化など設備改善の提案をいたします。

●管理・運営(オペレーション)

・ポンプ場設備全体の運営を引き受け、安全性・効率性・経済性などあらゆる面から最適な設備運営を維持できるようサポートいたします。



ポンプのオーバーホール



ポンプの保守点検(レーザー式シャフト芯出し)



ポンプケーシングのアップグレード(REDU)



REDUとは、トリシマが商標登録している独自のサービスシステムで、既設ポンプの修理から復元、改善、更新まで、最新技術を駆使して、より高効率で高性能なポンプをお届けします。



ECOポンプでCO2削減

ポンプのライフサイクルコストの90%以上は電力費です。当社はポンプメーカーとして、省電力で運転が可能な高効率ポンプ(通称エコポンプ)を開発しました。

数パーセントの効率改善が、大きなCO2削減に繋がるエコポンプの販売を通じて、低炭素社会への転換に貢献していきたいと考えています。



片吸込単段渦巻ポンプ(CAシリーズ)

●電力費の削減の事例

口径150mm モーター容量75kW			
効率改善	5%	10%	15%
動力削減	3.7kW	7.5kW	11.2kW
電力削減量	49万kW	99万kW	148万kW
コストダウン	492万円	985万円	1,478万円
CO2削減量	175 t-CO2	350 t-CO2	525 t-CO2

※コストダウン=動力削減×10円
 ※CO2削減量=動力削減×0.000355
 ※CO2排出係数は2008年度 関西電力の数値0.000355(t-CO2/kWh)

条件

運転期間:15年間 (131,400時間=8,760時間/年×15年)

- 対象ポンプ :CAL150-315 (75kW)
- 運転条件 :60Hz-4P 常温/清水
- 電気代 :10円/kWh
- 主要交換部品(交換想定回数)
 ケーシング(1)、インペラ(2)、シャフト(2)、ウェアリング(2)、ベアリング(7)
 パッキン類(7)、カプリング(1)、カプリングゴム(7)、メカニカルシール(7)

新エネルギー・環境事業

風力発電設備

2008年4月からの京都議定書第一約束期間において、2012年までに1990年比で温室効果ガス排出量を批准国全体で5%削減することが目標とされている中、CO2排出量削減につながる自然エネルギーの利用が大きく注目されています。中でも風力エネルギーはクリーンで環境に優しく、再生可能なエネルギーであり、近年国内外で風力発電システムの導入が飛躍的に拡大しています。トリシマは風力発電システムの導入に関する風況・立地調査から事業計画、設計及び設置工事、メンテナンスに至るまでトータルなエンジニアリングを行い、総合的にお客様をサポートしています。

なお、2010年度までにトリシマ提供の風車稼働状況を、その規模・台数別に見ると、35~100kW:4台、1,500kW:63台、2,500kW:1台の計68台となっています。

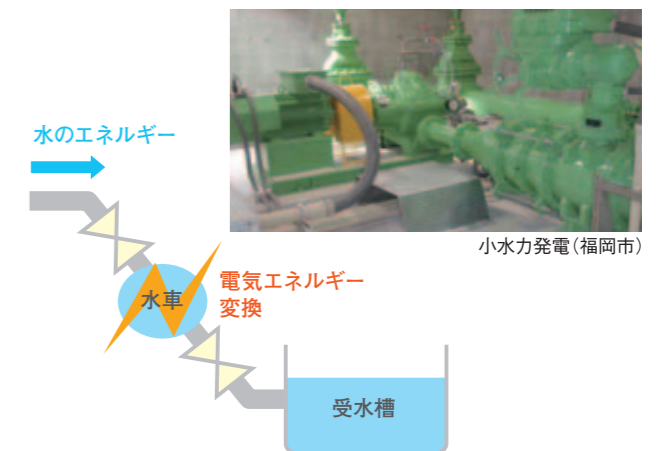


100kW風車(沖縄県久米島)

小水力発電設備

自然エネルギー利用設備としてトリシマでは風力発電と共に小水力発電設備を製品化しています。小水力発電設備は、これまで利用されていなかったダム維持放流水などの小水量の水の位置エネルギーを電気エネルギーに変換する設備です。

トリシマはインライン型をはじめ、ポンプ逆転水車など様々な機種をラインアップしています。



小水力発電(福岡市)

環境 マネジメント

環境方針と推進体制

トリシマは環境負荷の低減に寄与する高効率ポンプをはじめとした製品、そして再生可能なエネルギーの基盤となる製品を社会に送り出し、一方で効率的な生産活動体制によりCO₂排出量の削減や資源の再利用化に取り組むことで、低炭素社会の実現を推進しております。

環境方針(本社工場)

《理念》

株式会社西島製作所本社工場は、地球環境保全が人類共通の重要課題であると認識し、「人のため、社会のため、そしてこの地球を住み良くするために、「美しい自然とやすらぎのある地球環境づくり」をテーマに、ポンプを含む環境共生事業を通して、より豊かで潤いのある生活環境づくりのための循環型環境システムを社会に提供します。また、環境に配慮した生産活動による環境負荷の低い製品を提供することを通じて、地球規模で持続的発展が可能な社会の構築に貢献し、健やかな地球環境を未来に引き継ぐことを目指します。

《活動方針》

私たちはこの理念を具現化するため以下の活動を推進します。

- (1) 環境に配慮した高効率ポンプを開発・提供し、省エネルギーに貢献します。
- (2) 自然エネルギーを利用した風力発電システム及び小水力発電システムを開発・提供し、CO₂の削減に貢献します。
- (3) 廃棄物の再利用を目指した技術を提供し、資源リサイクルの向上に貢献します。
- (4) 環境影響評価結果に基づき、環境負荷の低減と汚染の予防を積極的に推進するとともに、環境保全活動の継続的改善を図ります。
- (5) 環境関連の法規制、条例及び同意するその他の要求事項を遵守するとともに社内規程を制定し、これを遵守します。
- (6) 生産活動において、省資源、省エネルギー、リサイクル、廃棄物の削減および化学物質の適正管理に取り組み、環境への負荷低減を進めます。

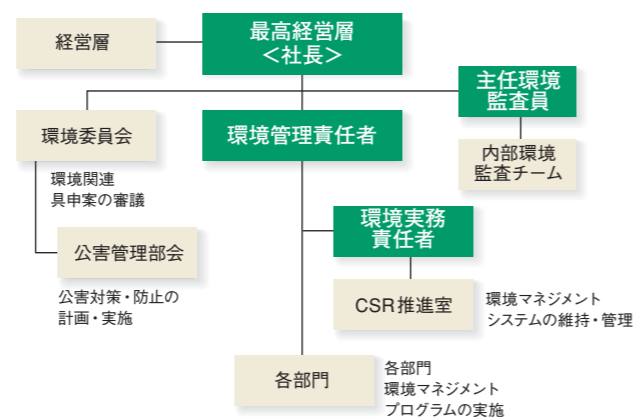
2006年10月26日
株式会社 西島製作所
代表取締役社長

原田 新太郎

環境マネジメント推進体制

最高経営層の環境に対する方針を具現化するために、環境管理責任者を委員長とする「環境委員会」にて環境推進計画を立案・審議しています。その計画に基づき各部門での具体的な環境活動へと展開され実施しています。活動の結果は、「環境委員会」にて審議され、その内容を最高経営層に報告し、マネジメントレビューを受けることで環境推進活動のさらなるレベルアップへつなげています。

●(株)西島製作所 本社工場の推進体制図



環境マネジメント

環境自主行動計画と実績

●西島製作所本社工場 2010年度環境目標・実績評価および2011年度環境目標

評価欄凡例: 成果が充分あった 一部成果があった 努力が必要

2010年度目標		2010年度実績	自己評価	2011年度目標	
環境貢献製品の提供・開発	ポンプ事業	1. 効率改善型ボイラー給水ポンプ(MHG)の提供によるCO ₂ 削減量80,000t-CO ₂ /年とする。 2. エコポンプ(CAポンプ)・高効率モーターの提供によるCO ₂ 削減量を4,800t-CO ₂ /年とする。 3. 効率改善型大型ポンプの提供によるCO ₂ 削減量を68,900t-CO ₂ /年とする。	CO ₂ 削減量: 1. 効率改善型ボイラー給水ポンプ(MHG) 110,700t-CO ₂ /年 2. エコポンプ(CAポンプ)・高効率モーター 4,400t-CO ₂ /年 3. 効率改善型大型ポンプ 57,300t-CO ₂ /年	 	CO ₂ 削減量: 1. 効率改善型ボイラー給水ポンプ(MHG) 130,000t-CO ₂ /年 2. エコポンプ(CAポンプ)・高効率モーター 9,500t-CO ₂ /年 3. 効率改善型大型ポンプ 76,500t-CO ₂ /年
	新エネルギー・環境事業	1. 風力発電設備の提供によるCO ₂ 削減量を88,000t-CO ₂ /年とする。	CO ₂ 削減量: 風力発電施設 86,400t-CO ₂ /年 (設備利用率を23%として推測)		CO ₂ 削減量: 風力発電施設 88,000t-CO ₂ /年
		2. 小水力発電施設の提供によるCO ₂ 削減量を558t-CO ₂ /年とする。	CO ₂ 削減量: 小水力発電施設 562t-CO ₂ /年		CO ₂ 削減量: 小水力発電施設 630t-CO ₂ /年
		3. 汚泥脱水乾燥装置の提供によるCO ₂ 削減量を評価する。(初年度のため未設定)	CO ₂ 削減量: 汚泥脱水乾燥装置 20t-CO ₂ /年		CO ₂ 削減量: 汚泥脱水乾燥装置 24t-CO ₂ /年
4. 超音波汚泥減量化装置の提供によるCO ₂ 削減量を12.3t-CO ₂ /年とする。		CO ₂ 削減量: 超音波汚泥減量化装置 12.8t-CO ₂ /年		CO ₂ 削減量: 超音波汚泥減量化装置 12.3t-CO ₂ /年	
環境負荷の低減・汚染の予防	生産活動における省資源、省エネルギー	1. 単位生産高当たりのCO ₂ 排出量を2008年度比2%以上削減する。 2. CO ₂ 排出量を1990年度比5%以上削減する。	原単位CO ₂ 排出量: 2008年度比で24.5%増加 CO ₂ 排出量: 対1990年度比で9.3%削減	 	原単位排出CO ₂ 量: 2008年度比3%以上削減する。 CO ₂ 排出量: 1990年度比6%以上削減する。
	生産活動における廃棄物の削減	1. 単位生産高当たりの廃棄物を2008年度比3%以上削減する。 2. 再資源化率97%以上を目指す。	原単位廃棄物量: 2008年度比で34.5%増加 再資源化率: 97%	 	原単位廃棄物量: 2008年度比3%以上削減する。 再資源化率: 98%以上
	環境関連法規制の遵守	1. 法令の確認と遵守 2. 社内規程の遵守	違法事項なし		法令・社内規程の確認と遵守 改正省エネ法に基づくエネルギー使用量把握と管理体制整備
	特定化学物質取扱量の削減	1. 単位生産高当たりのVOC使用量を2008年度比25%以上削減する。	原単位VOC使用量: 2008年度比で12.6%増加		原単位VOC使用量: 2008年度比25%以上削減する。
	環境保全活動及び改善活動の推進	1. 土壌・地下水の浄化作業 2. 環境パトロールの実施 3. グリーン購入・調達推進	揮発性有機化合物(VOC)の回収 毎週1回、環境パトロールを実施 特定化学物質の使用状況調査の実施	 	土壌・地下水の浄化作業 環境パトロールの実施 グリーン購入・調達の推進

CO₂排出量削減への取り組み

京都議定書の第一約束期間に入り、さらなるCO₂削減の自主的な取り組みが要求される中でトリシマは、

- 環境貢献製品(高効率ポンプ、風車etc)の開発・提供によるCO₂削減
- 生産活動における省エネルギーによるCO₂削減

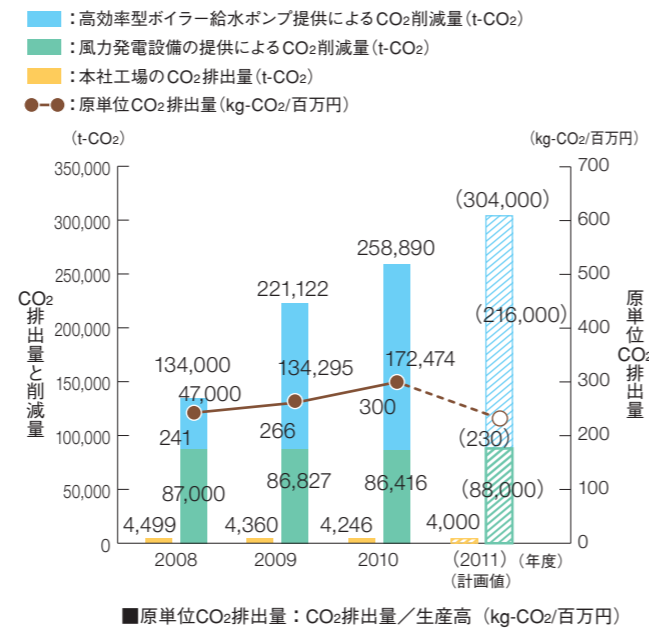
をテーマに掲げて、削減に取り組んでいます。

環境貢献製品においては高効率ポンプの提供によるCO₂削減が成果を出し始め、風車提供によるCO₂削減と合わせ2010年度は約258,890t-CO₂の削減となりました。

生産活動における2010年度のエネルギー使用に起因するCO₂排出量は、1990年度比では9.3%減少したものの、単位生産高当たりでは2008年度比で24.5%増加しました。

以上を踏まえ、本年度は以下の取り組みを実施いたします。

- (1) 海水淡水化用大型ポンプの効率改善やエコポンプの提供
- (2) 第2機械工場に省エネ型電灯を一斉導入
- (3) 毎月の電力使用量データの社内掲示による「見える化」を通じた節電意識の啓発
- (4) 電気炉運転方法の見直し・効率化による余熱の有効利用



廃棄物の抑制と再資源化への取り組み

従来より実施している分別廃棄の徹底、金属くずや鑄造廃砂・使用済み油の再資源化に加え、鑄造旧模型の再資源化を実施してまいりました。

その結果、2010年度の廃棄物量は約56トンと、前年度の廃棄物量264トンに比べて大幅に減少しました。

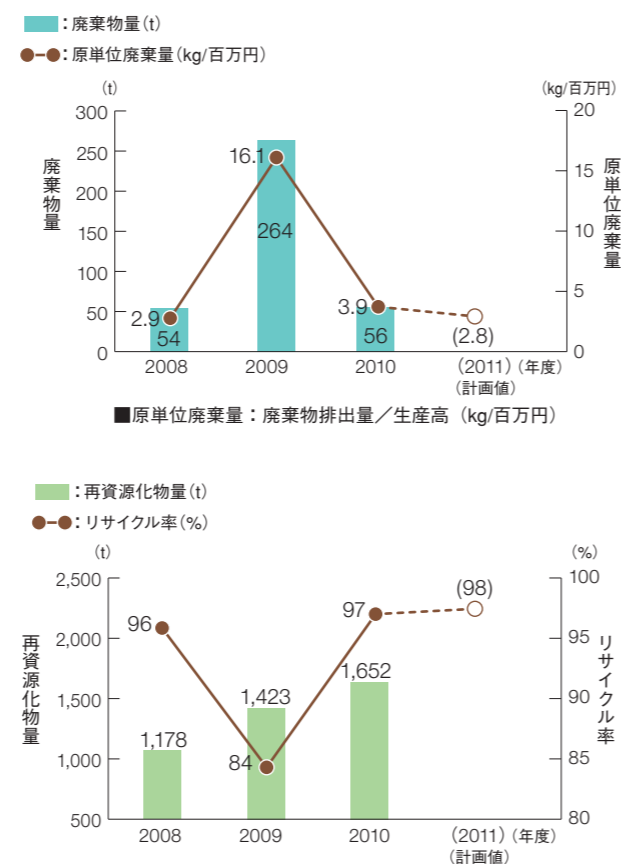
とりわけ鑄造旧模型の再資源化に関してトリシマは、

- 2010年9月以降、
廃木型を含め、全ての廃却模型について
100%再資源化を実施し、廃棄物量を
低減しています。

これにより、2010年度のリサイクル率は97%と、前年度の84.3%に比べて大きくリサイクル率が向上しました。しかし、一方で、2010年度の単位生産高当たりの廃棄物量は、2008年度に比べて34.5%増加しました。

以上を踏まえ、本年度は以下の取り組みを実施します。

- (1) 塗装場や試験場水槽より排出される汚泥の発生量低減
- (2) 産業廃棄物の分別化の徹底



特定化学物質取扱量の削減への取り組み

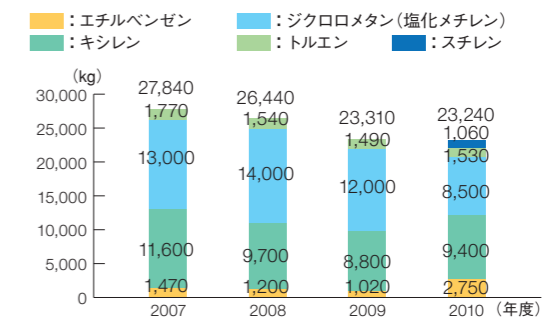
塗料や有機溶剤に含まれている特定化学物質について、取扱量の削減に努めています。2010年度の特定化学物質取扱量は、塩化メチレン・キシレン・トルエン・エチルベンゼン、スチレンなど5種類の合計で、23,240 kgとなり、2008年度比で12%の削減量となります。このうち、最も多くの割合を占め、人体に対して強い有害性を持つ塩化メチレンについてトリシマは、

- 2010年12月以降、塩化メチレンを含有しないタイプの洗浄剤を使用し、特定化学物質取扱量を低減しています。

更なる特定化学物質取扱量の削減に向けて、本年度は以下の取り組みを実施してまいります。

- (1) PRTR対象物質の含有量が少ない他の溶剤系洗浄剤への切り替えやエコ塗料の導入に関する検証
- (2) 塗着効率の向上による塗料全体の使用量の削減

● 特定化学物質取扱量



エネルギー使用量および環境負荷に関する状況

当社では、事業活動が及ぼす環境への影響を把握し、その影響を常に自覚して製品の開発から、廃棄に至るまでの全ての段階における環境負荷の低減に努めております。2010年度におきましては、2010年5月に自家発電施設・自家発電用重油タンクを撤去したことから、本社工場の燃料としてのA重油使用量をゼロとすることができました。結果として、CO₂排出量の削減にも繋がりました。

2009年度比

A重油使用量の削減率; **-100%**

CO₂排出量の削減率; **-2.6%**

● 株式会社西島製作所 本社工場および株式会社九州トリシマ (2010年度)

	インプット		アウトプット	
	西島製作所 本社工場 (対前年度比)	九州トリシマ	西島製作所 本社工場 (対前年度比)	九州トリシマ
エネルギー				
電力	1,048万 kWh (4%減少)	53万 kWh	CO ₂ 排出量	4,246 t-CO ₂ (3%減少)
A重油	0kL (100%減少)	—	廃棄物量	56t (79%減少)
灯油	83kL (増減なし)	0.5kL	再資源化物	1,652t (16%増加)
ガソリン・軽油	12.5kL (15%減少)	5.2kL		
都市ガス	130,000m ³ (31%増加)	—		
LPG	—	4,400m ³		
原油換算燃料使用量	2,918kL (3%減少)			
水資源				
工業用水	59,000m ³ (19%減少)	—		
水道水	30,000m ³ (29%増加)	846m ³		

事業活動(製造プロセス)

環境会計

●環境保全コスト

(単位:百万円)

分類	主な取り組み	設備投資額	費用額
公害防止	公害防止設備の導入及び維持・管理など	0 (0)	12 (11)
地球環境保全	省エネルギー設備の導入など	0 (0)	17 (22)
資源循環	再資源化設備の維持・管理、廃棄物処理委託など	0 (0)	27 (30)
管理活動	EMSの維持・管理、環境負荷監視、環境教育など	0 (0)	53 (53)
研究開発	高効率ポンプ、風力発電設備、汚泥減量化システムなど	0 (0)	83 (167)
新エネ・環境事業への投資*1	風力発電設備、バイオマス発電設備など	0 (0)	143 (167)
合計		0 (0)	335 (450)

※カッコ内数値は2009年度

当該期間の研究開発費の総額	567 (730)
---------------	-----------

集計範囲:株式会社西島製作所 本社工場(*1 当社国内関係会社への投資を含む)

対象期間:2010年4月1日~2011年3月31日

集計方法:環境省の環境会計ガイドライン2005年版を参照

環境監査

当社は、環境マネジメントシステムのISO14001規格への適合性、運用状況などを確認するために毎年定期的に、「内部環境監査」と「第三者審査機関による外部審査」を実施しています。2010年度の内部環境監査は、社内基準を満たした主任環境監査員以下37名の監査員にて実施しました。内部環境監査及び外部審査の結果は、最高経営層に報告され、環境マネジメントシステムの見直しを含む継続的な改善を行っています。

●トリシマグループのISO14001認証取得状況

取得年月	名称
1997年7月	株式会社西島製作所 本社および本社工場
2004年3月	株式会社トリシマ・グナ・インドネシア
2004年3月	株式会社トリシマ・グナ・エンジニアリング
2005年3月	株式会社九州トリシマ

●内部監査実施状況(本社および本社工場)

実施日:2010年10月26日~2010年11月17日
被監査部門:本社工場内22部門および工事現場

環境パトロール

環境保全活動の一環として、環境へ悪影響を及ぼす要因を未然に取り除くことを目的とし、工場内においては毎週1回、「土壌汚染の防止」「産業廃棄物の管理」「水質汚染の防止」「工場美化推進」「省エネ化推進運動」と週ごとにテーマを変えてパトロールを実施しています。また、工場敷地外周辺においても、近隣住民の皆様にご迷惑をかけている要因は無いかということを確認するために環境パトロールを実施しています。



土壌・地下水の浄化

本社工場において工場敷地内の1カ所で揮発性有機化合物による土壌・地下水汚染が判明し、2000年6月に浄化対策に着手しました。なお汚染は敷地内一部に留まり、敷地外への汚染拡散はなく現在も浄化作業と監視を実施しています。

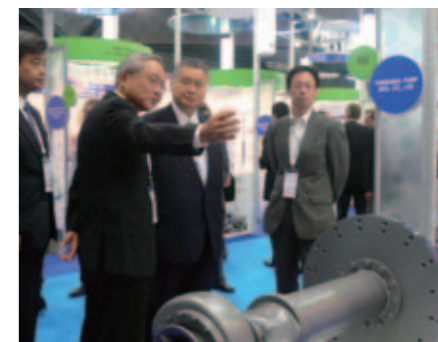
環境コミュニケーション

「Singapore International Water Week2010」

「水」をキーワードに、世界中から関係者が集まる国際イベント「Singapore International Water Week(シンガポール国際水週間)」(2010年6月28日~7月1日)の一環として開催された「水エクスポ」(6月29日~7月1日)に、今回、当社も初めて出展しました。

当社ブースでは来場者の目を引くよう、海水淡水化プラントで使用するブライン再循環ポンプとRO高圧海水供給ポンプのモデル機を展示するとともに、世界での納入実績や会社紹介ビデオなどと合わせて、分かりやすく興味深く当社の存在を世界にPRしました。

総来場者数は、85ヶ国14,000人でそのうち7,449人が本エクスポに足を運び、水処理に関わる政府高官や政策立案者、各専門機関・企業のキーパーソン、研究者、専門家など、3日間にわたって非常に多くの人で賑わいました。また、アジア各国の水道局からも重要人物が当社ブースに来場され、当社の主な顧客となるコンサルタントやエンドユーザーに、当社の特長や強みを説明することができました。

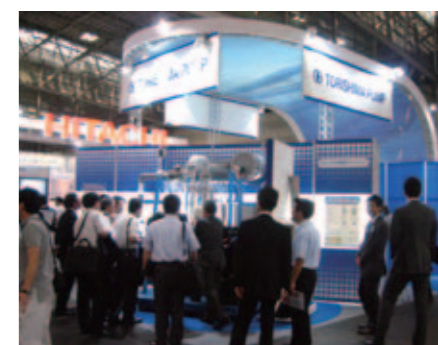


当社展示ブース

下水道展2010 名古屋

「下水道展2010名古屋」が、2010年7月27日~30日、「ポートメッセなごや」で開催されました。本展示会は、下水道関係者及び一般の方々から下水道について理解や交流を深め、下水道事業の進展を図ることを目的に、(社)日本下水道協会が主催となり、毎年開催されているものです。23回目を迎える今回は、下水道関連企業278社(団体)が参加しました。当社ブースでは、「トリシマのエコソリューション」をテーマに、下水道設備のライフサイクルコストの削減・維持管理の効率化に貢献する製品やシステム、また省エネで電力費とCO2削減を実現する「エコポンプ」などをデモ機やパネル等で紹介しました。

4日間の総来場者数は75,821人と、日本の下水道関係者はもちろん、中国や韓国の関連企業からの来場者も多く、日本の下水道業界に、いかに関心と注目が集まっているかがうかがえました。



当社展示ブース

研修センター(とりしまクラブ)

研修センターを2000年に開設し、従業員や代理店にて技術・安全衛生・環境教育を随時実施しております。この施設は環境に優しい研修施設となっており、無限でクリーンな太陽エネルギーを室内の照明設備や庭園灯の電気として有効利用する太陽光発電システムの採用、雨水を地下タンクと雨水貯留管に集積してトイレのフラッシングや庭・樹木の散水に利用したり、屋上緑化設備により、冷暖房設備利用の低減を図ることが可能であり、省エネルギーを実現しております。



とりしまクラブ

雨水貯留管

「とりしまクラブ」の太陽光発電システムは、最大出力10kW、年間7,000kWhを発電します。



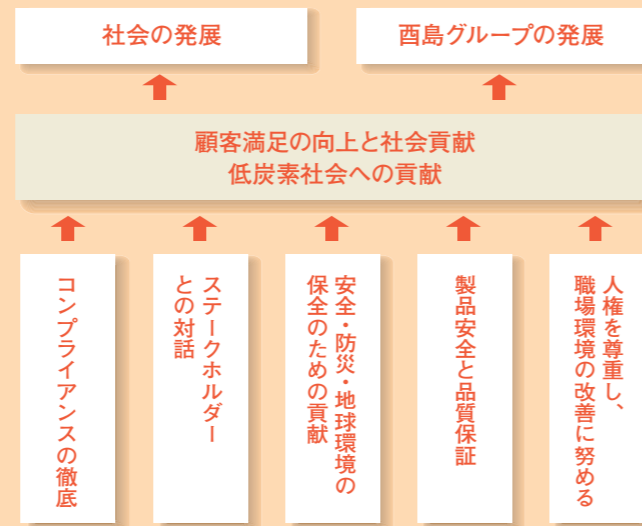
屋上緑化

企業の 社会への貢献



CSRの推進体制

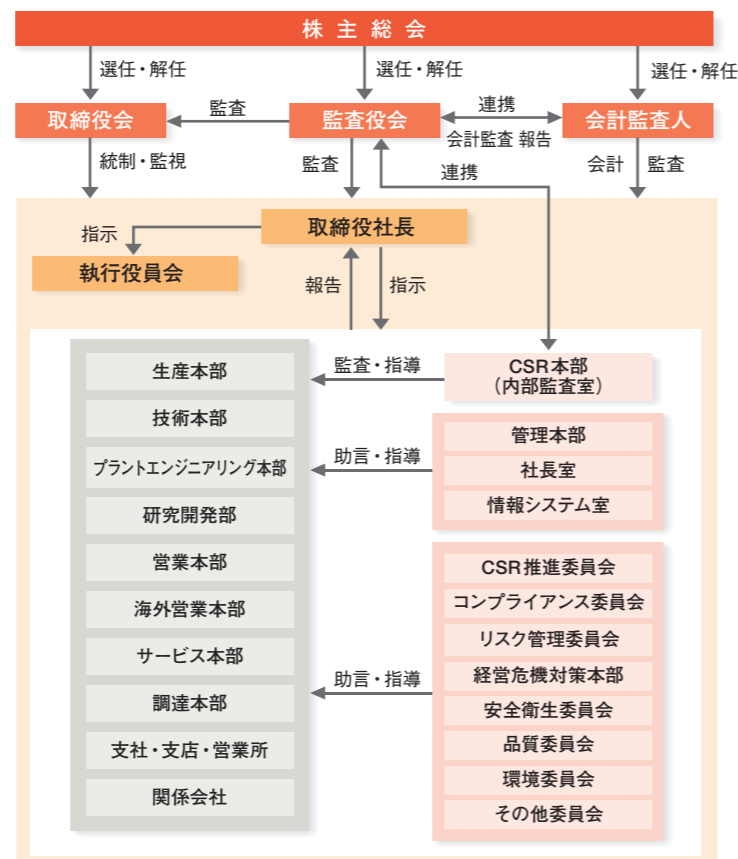
企業の社会的責任を重視した経営への社会的要請を背景に「社会・経済・環境」の3つの価値バランスを大切にしながら、コーポレートガバナンス及びリスク管理・内部統制、J-SOX法対応など社内体制強化を推進致しております。



コーポレートガバナンス体制

当社は、監査役会設置会社であり社外監査役3名を含む計5名の監査役は、毎月開催の定例取締役会に出席し、必要に応じて意見を述べるほか、社内の重要会議にも出席するなど経営状況全般を把握することにより、取締役等の業務執行状況を十分に把握できる体制をとっております。

●コーポレートガバナンス体制図



企業の社会への貢献

コンプライアンスに関する方針と推進体制

西島グループコンプライアンス宣言

西島製作所グループは、「金銭の赤字は出しても信用の赤字は出さず」を社是として事業を推進して参りました。この社是は、「赤字や借入金は徐々に返済していけば取り返しがつく。だが、一度失った信用の回復には長い年月を要し、時と場合によっては戻らないこともあり、会社の致命傷にもなりかねない。その信用もまた、コツコツと積み重ねていくものである。」ことを示すもので、この精神はコンプライアンスに繋がるものであります。我々はこの精神に則り、コンプライアンスの推進の手引き書である「倫理規範」及び「行動基準」を既に制定しておりますが、この度コンプライアンス強化の法改正に対応するため改訂を行いました。西島製作所グループは、これらの「倫理規範」及び「行動基準」を守り、業務を遂行します。

万一、コンプライアンスに抵触する行為が発生した場合には速やかに是正し、再発防止策を講ずるとともに、情報公開を行い、ステークホルダーへの説明責任を果たします。そして西島製作所グループの全ての役員・従業員は、個々のコンプライアンスの実践が企業倫理を形成していくとの強い決意のもと、組織及び個人が一体となってコンプライアンスに取り組むことを宣誓致します。

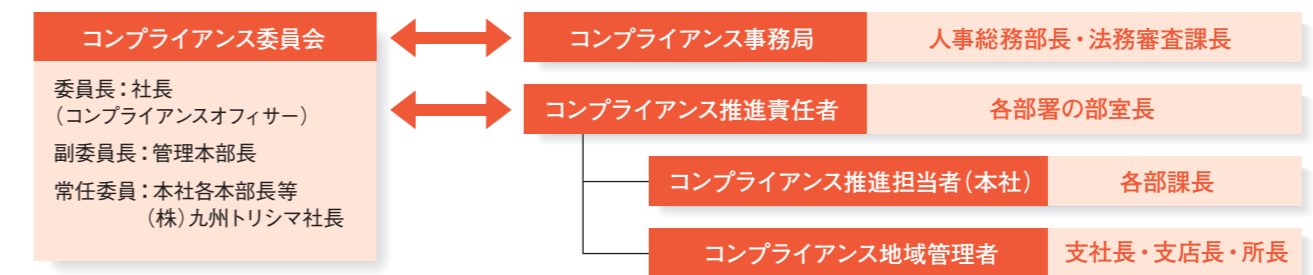
2007年9月1日
株式会社 西島製作所
代表取締役社長

原田耕太郎

コンプライアンス推進体制

職場での企業倫理等に関する相談窓口及び社長を委員長とした「コンプライアンス委員会」を設置し、当委員会においては、①当社及び当社の子会社の遵法体制・倫理体制の構築とこれらの状況監視、②企業倫理に関する監査報

告への指導・助言、③企業倫理に関する教育計画、教育活動についての指導・助言・承認、④相談窓口からの連絡に対する対応・指導・助言、⑤その他有事の発生時の対応・指導・助言を任務としております。



CSR教育体制

当社では、社員に対しCSR教育の一環として、CSR研修を年に一度実施しております。本研修では、当社のCSRの基本思想である「金銭の赤字は出しても信用の赤字は出さず」という社是と、「私達は人と自然との関わりを大切に、ポンプを含む環境共生事業を通して広く社会に貢献します。」という企業理念を中心に、①独占禁止法・下請法等の経済法②「反社会的勢力」に対する取組③内部統制(金融商品取引法・会社法)④安全保障貿易管理⑤インサイダー取引規制⑥製造・販売した製品に対する企業の責任等につき、「法令等の理解」と「当社従業員が具体的にど

う行動すべきか」に焦点を当て講義し、CSRに対する意識の更なる向上を図っております。



地域・お客様等とのかかわり

東日本大震災に関する当社の対応状況

<東日本大震災 被災地域への義援金について>

被災された皆様の今後の生活支援として、岩手・宮城・福島・茨城の各県へ総額3,000万円の義援金を拠出いたしました。当社の海外オフィスを通じ現地のお客様より寄せられた義援金は、日本赤十字社を通じて寄付しております。

<被災地域におけるお客様への復旧支援の取り組み>

当社はグループ全従業員一丸となり、被災された自治体ならびに民間事業者のお客様に対して、基幹施設の早期復旧を目指し、緊急対応や被害状況調査などの支援業務に取り組んでおります。2011年5月末現在では、右記のようなご要望を受け、対応している状況です。

・揚排水機場様：

震災後、運転に支障がないか機場の点検のご依頼があり、現地調査実施。津波による浸水被害状況調査と応急対策・恒久対策事前調査を実施。応急復旧工事にも対応。

・火力発電所様：

地震・津波被災状況調査のため、技術指導員の派遣のご要請を受け、派遣対応。ポンプ津波冠水のため分解点検整備のご依頼があり、当社工場に持ち込み検査実施。早期復旧を対応中。

・製紙会社様：

定期検査前倒しのご要請を受け、技術指導員の派遣日程および部品納期短縮を調整。ポンプ台数が多数にのぼるため、現地搬入日程に合わせて点検整備・施工順位等を調整。

・製鉄会社様：

プラント早期操業のご希望を受け、現地簡易検査と工場持ち込み定期検査を同時並行で実施。工場持ち込み・点検整備について対応中。

CS (Customer Satisfaction) 向上のための社員教育～中東現地見学研修【第3弾】～

2010年7月末から8月初旬にかけて、UAE・カタール現地見学研修を2グループ18名の社員を対象に実施しました。

この研修の趣旨は、「社員が実際に海外の現場に赴くことで、国境を越えてお客様のニーズとシーズを把握し、それらを実現化していくこと」です。それと同時にステークホルダーの一員である「社員」が広大な砂漠の中で、当社のポンプが何十何百とフル稼働している勇壮な姿を見て感動を味わい、業務に対するモチベーションアップを図るという人材(財)育成の一環でもあります。今後も、「人が生き生きと仕事をしながら、組織としても更に業績を上げ続ける会社」を目指して当社の人材(財)育成の試みは、続きます。

VOICE 研修参加者の感想

「もっと、現場に行くように！」と新人研修の頃によく言われたことを思い出しました。実際のポンプ場は、宝の山というにふさわしく非常に刺激的でした。

今まで漠然と“中東”という場所をイメージしていましたが、実際に行ってみて、想像以上の暑さ(滞在中の日中温度:45℃)で現地の過酷な状況を実感しました。

実際に運転しているポンプを見ることが無く、また、海外経験も無かったので、全てが貴重な体験でした。日々の業務が世界と繋がっていると実感でき、私も西島マンとして世界で活躍できるよう日々研鑽を重ねながら、今後の業務に取り組んでいきたいと強く感じました。



UAE Al Ain (アルアイン) プロジェクトサイトにて

地域社会への貢献

～近隣の小学校への出前授業3年目～

当社は、2008年度より「社会・地域・教育現場への貢献」[社員のスキル・モチベーションの向上]を目的に「ドリカムスクール^{※1}」に参画しております。2010年度も全社横断的に、各部署から1名ずつ選出した9名の若手社員(平均年齢26歳、内2名は女性)が自ら「MARUTOブラザーズ」と銘打ち、7月10日の事前研修を皮切りに毎週のミーティング(各回約3時間)を重ねて授業に臨みました。

JAEコーディネーターの方にサポートしていただき、大阪府高槻市立五領小学校の5年生76名に「“ものづくり、共同作業”を通じて、子どもたちに“発見することの楽しさ”を伝える」をコンセプトに「地域の企業として、会社の紹介や仕事にける自分達の想いを伝えること」や「子ども達自身のジオラマづくり《テーマ:30年後、住民みんなが笑顔になる五領の町をつくらう! (ポンプを活用した30年後の五領の町づくり)》と子ども達によるプレゼン実施」を10月末から11月下旬にかけて計4日間の出前授業にて実施いたしました。ミーティングを重ねる内にいつの間にかメンバーの気持ちが「やってやる!!」という熱意に変貌し仲間意識と連帯感が芽生え、子ども達と一体となって授業を進めて行きました。2011年度も新たなメンバーで「ドリカムスクール」に参画し、更なる社会貢献を目指します。2011年度は、大阪府茨木市立三島小学校をご訪問させていただく予定です。

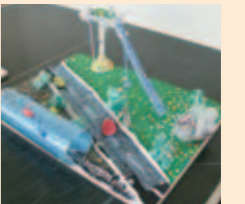
※1: NPO法人JAEが2005年度より小中学生を対象に実施しているキャリアマインド育成プログラム



MARUTOブラザーズと五領小学校5年生

VOICE 参加メンバーの感想

ドリカムを通して、かけがえない仲間ができたことがとても嬉しく、活動を支援していただいた上司はじめ会社の方々に感謝しています。



ジオラマ作品

子ども達へのポンプや会社の説明を通じて、相手に合わせて分かり易く伝える力(プレゼンテーション力)が高まったと思います。

VOICE 社内コーディネーターの感想

4日間の出前授業終了後の「社内報告会」では、メンバーの表情も自信に満ちたものとなり、会社や仕事、自分自身について見つめ直し、更に意欲的に仕事に取り組むきっかけとなったように思います。

参加記念として当社鋳造工場にて鋳造した「トリボンメダル」を子ども達全員に贈呈させていただきました。



5S活動の実施～工場周辺の清掃・美化活動～

当社では、「全員参加の5S活動」をスローガンに、職場環境の維持改善に努めております。また、各部署ではゴミの減量化・分別推進を行うとともに、毎月2回、本社工場の外周において清掃活動を実施し、工場周辺の環境美化推進に努めております。



財団法人 原田記念財団が公益財団法人へ移行認定を受けました
～水力学等研究の発展と次世代への架け橋となる人材育成のために～

財団法人原田記念財団は1981年3月当時の社長でありました原田龍平氏が私財を投じて「ポンプ産業に関係の深い水力学・流体力学・流体機械などの自然科学の学術研究に従事している個人・団体への研究助成と、次の時代を担う青少年への奨学助成」を目的として創設されました。設立の背景には「社会に対する目に見えない借りに対する恩返し」という強い思いが込められておりますが、創設30周年を迎え、これまでの研究助成の成果と社会に巣立った多くの奨学生が各分野で貢献しております。

●財団発足時から2010年度までの助成累計

研究助成
件数 199件
奨学助成
件数 763件^{※1}



奨学生激励会

※1: (奨学生内訳) 大学院生166名、大学生34名、高校生563名

リスクマネジメント

安全衛生方針(本社工場)

《基本理念》

当社はポンプを中心とした製品の開発・製造をはじめとする事業活動を通じて社会に貢献すると共に、社員が安心して働ける「安全衛生環境の創造」と「健康の保持・増進」をQCDの基盤と位置づけ、安全衛生基本方針を定めて、常にスパイラルアップを図る新たな安全衛生文化を構築します。そして、永久に成長し続ける活力ある企業になることを目指します。

《基本方針》

- 1.労働安全衛生マネジメントシステムを確立し継続的な改善活動を通して常に安全衛生水準の向上を目指す。
- 2.リスクアセスメントを通して職場の危険有害要因を明確にし、対策の優先度を定めて実施することでリスクを最小化し、「危険ゼロ」の安全で快適な職場を目指す。
- 3.安全衛生関係法令及び社内基準を遵守し、より一層の安全衛生管理に努める。
- 4.全従業員のみならず、構内で働く関係者の協力の下にコミュニケーションを図り、全員参加の安全衛生活動を実行する。
- 5.従業員の教育・訓練及び社内外への広報活動を通じて、安全衛生意識の高揚に努める。
- 6.安全衛生活動の実行にあたっては、適切な経営資源を投入し、効果的な改善を継続的に実施する。

2008年10月1日
株式会社 西島製作所
代表取締役社長

原田耕太郎

総括安全衛生管理者

山本秀章

リスクアセスメントに関する取り組み

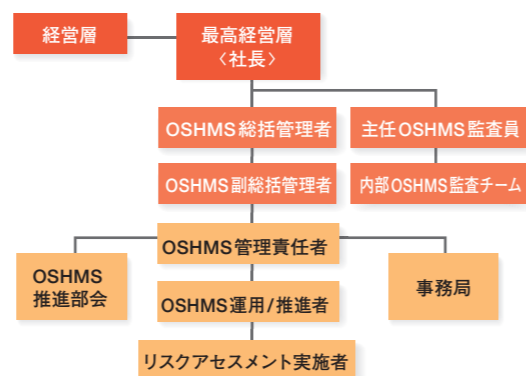
当社は2010年4月に中央労働災害防止協会より、JISHA方式OSHMS(労働安全衛生マネジメントシステム)基準の適格認定を受け安全衛生管理活動を実施しています。この活動の一環として、主に製造部門に対しリスクアセスメントを実施し、危険性・有害性の頻度・可能性・重大性によりリスクレベルを評価、低減措置を講じています。

その結果、2010年度は全社で239件のリスクを洗い出し、その内214件について改善策を実施することで全体のリスクを最小化することが出来ました。今年度は残りのリスク件数も含め、更なるリスク低減に向けた安全衛生改善活動を推進します。

事業継続経営(BCM)

BCM(Business Continuous Management)マニュアルを作成、災害時に備えた行動規範を社員に教育し、平成22年9月1日、大規模災害(地震・火災)防災訓練を実施しました。大規模災害が発生した際、従業員の安全確保、BCPの初動体制マニュアルの検証・情報収集を目的に震度6強の地震が発生したと想定して、本社全部署を対象に取り組みました。この訓練を通して新たに改善点等が見つかりました。今後訓練内容を改善し、全社員が災害意識を高め、災害防止に備える訓練を継続的に取り組んでまいります。

●OSHMS推進体制図



株式会社九州トリシマ



当社は、画期的な高効率ポンプであるエコポンプ(CA)の製造・販売及びポンプ全般に係わるエンジニアリングとアフターサービスに携わっています。前年に引き続き、従業員一丸となって環境保全活動に取り組んでいます。廃棄物の処理においては、分別収集の徹底にて、燃料化・再資源化されるようになり、再資源化物の量は前年比で20%の増加で、環境に対する従業員の意識改革にもつながりました。また、工場電灯をエコタイプの電灯に変更するなど、省エネルギー活動を推進しています。

設立 :1990年6月

代表者 :代表取締役会長 原田耕太郎、代表取締役社長 堤正之

住所 :佐賀県武雄市若木町大字川古9857番地13

株式会社トリシマ・グナ・インドネシア 株式会社トリシマ・グナ・エンジニアリング



当社は、標準ポンプの加工・組立を基本にして、インドネシアを含むアセアン地域での販売、エンジニアリング及びアフターサービスに携わっています。従業員への環境教育を積極的に実施し、ゴミ箱に色を付けてごみ分別の徹底を図ったり、節電・節水のためのステッカーを作るなど環境に対する意識啓発に努めています。

設立 :1984年2月(トリシマ・グナ・インドネシア)、1999年1月(トリシマ・グナ・エンジニアリング)

代表者 :代表取締役社長 佐藤宏(トリシマ・グナ・インドネシア)

代表取締役社長 Ridwan(トリシマ・グナ・エンジニアリング)

住所 :Jalan Rawa Summer Timer No.1, Pulogadung Industrial Estate P. O. Box 1160, Jakarta Indonesia

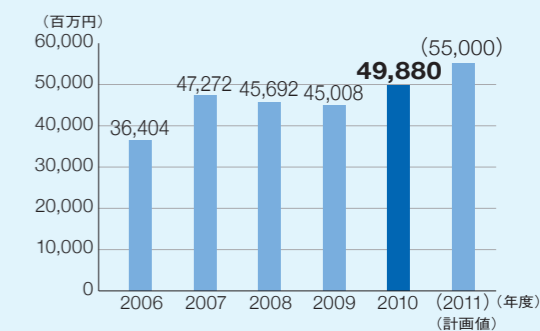
会社概況

会社名 : 株式会社 西島製作所
本社所在地 : 大阪府高槻市宮田町一丁目1番8号
創業 : 大正8年8月1日(1919年)
設立 : 昭和3年4月20日(1928年)
資本金 : 15億9,278万円(平成22年3月)
代表者 : 代表取締役社長 原田 耕太郎
関係会社 : 連結子会社12社(他関連会社6社)

編集方針 : この報告書は、「環境報告書ガイドライン(2007年度版・環境省発行)」を参考に作成しております。今後も皆様からのご批判・ご意見を取り入れ、より充実した内容にして参ります。

報告対象範囲 : 本社工場
報告分野 : 環境的側面および社会的側面
報告対象期間 : 2010年4月1日~2011年3月31日
発行 : 2011年7月(次回発行予定:2012年7月)
前回発行 : 2010年7月

●売上高推移(連結)



●従業員数推移(連結)

